



いよいよ2学期の学校生活が本格的に始まりました。充実した学期になるよう、外部専門員の先生方と引き続き力を合わせていきたいと思えます。

夏季休業中は、外部専門員の河村専門員と吉野専門員を講師にお招きし、教員対象に研修会を行いました。研修会の様子と、御助言いただいたものを御紹介いたします。

研修会①「特性に応じた指導～自閉症児の指導の基本について」

講師：臨床発達心理士 河村智子専門員

今年度は「自閉症」をテーマにして、特性を踏まえた指導のポイントをお話していただきました。ここでは講演の内容の一部「言葉の理解・表出について」の指導のポイントを抜粋して御紹介いたします。

☆言葉の理解について

- 見ただけで分かる視覚情報を用意していく。
- 言葉は短く、視覚情報や擬音などとともに伝えるようにする。
- しっかりと注意喚起して、表情や声のトーンなどの情報も意識する。
- シンプルに伝える。
- 概念的なこと、抽象的な言葉よりも、具体的に伝える。 ×「ちゃんとして」
- 行動やジェスチャーとセットで教えると、分かりやすいこともある。



☆言葉の表出について

- 個々に合わせた表出の方法を探して使えるようにしていく（決まったフレーズを言う、文字で書く、カード選択、ジェスチャー、指差しなど）。徐々にバリエーションを増やし、般化させていく。
- コミュニケーションは要求から！伝えたことで希望がなかった、という場面を設定する。本人の要求の強い場面でコミュニケーションの機会をつくる。
- 伝わって「良かった」という気持ちをもてるようにする。
- カードなどを使って楽に表出できるようにすることで、言葉のコミュニケーションとしての役割を知ることにつながる。確実に伝わるという経験を積む。



研修会②「教材作り研修」 講師：教材開発アドバイザー 吉野俊文専門員



例年多くの教員が木工室に集まり、教材作りに励みます（密を避けるため、今年度は少人数のグループに分かれて行いました）。吉野先生が、毎年工夫あふれる教材を次々と紹介してくれて、教員も「こんな教材作ってみたい！」と気合いが入ります。お子さんたちの「できた！分かった！」という表情を思い浮かべながら、教材作りを頑張っています！

